

神田外語大(千葉市)の学生が福島県浜通りの震災・原発事故被災地取材してまとめた新聞が完成した。農業の再生に奮闘したり、進出した企業で頑張っていたりする若者を大きく取り上げて全体的に前向きなトーンを出しながらも、復興にはまだまだ多くの課題があることにも触れている。裏面に英語版もある。

リーダーを務めた3年の関口椋久さん(21)は東京出身。「プロジェクトに関わるまでは正直、福島印象はほとんどなかった」と言う。実際に被災地を訪れてみて、「地元の方たちが楽し

## 帳染憂



### 「福島とともに」

そうに仕事をしているのが印象的だった」と話す一方、「本当に人が少ない。コンビニもない」と率直な感想も語ってくれた。

被災からまもなく15年。傷は少しずつ癒えているが、原発の廃炉にも、福島の復興にも、長い時間がかかるだろう。風化を懸念する声も聞く中、こうして県外の若者が関心を持ち、被災地の今を内外に発信してくれるのは心強い。

新聞のタイトルは「福島とともに」。復興を日本全体や世界の課題として、「未来をともに歩む決意を込めた」のだという。

【西川拓】

2026.2.6